

No.	一般名	薬効分類	改訂内容
平成20年9月19日発出			
08-026	メシル酸ブロモクリプチン	116 抗パーキンソン剤	〔禁忌〕の項に、「心エコー検査により、心臓弁尖肥厚、心臓弁可動制限及びこれらに伴う狭窄等の心臓弁膜の病変が確認された患者及びその既往のある患者」を追記し、 〔重要な基本的注意〕の項に、レボドパ又はドパミン受容体作動薬を投与されたパーキンソン病患者において、病的賭博、病的性欲亢進等の衝動制御障害が報告されているので、このような症状が発現した場合には、減量又は投与を中止するなど適切な処置を行う旨を追記し、 〔副作用〕の「重大な副作用」の項の胸膜炎、心膜炎、胸膜線維症、肺線維症に関する記載に、高用量を長期間投与した患者では、特に、発現リスクが増大するおそれがある旨、心臓弁膜症に関する記載に、高用量を長期間投与した患者では、特に、発現リスクが増大するおそれがある旨、後腹膜線維症に関する記載に、背部痛、下肢浮腫、腎機能障害等があらわれた場合には投与を中止する旨等記載整備した。
08-027	アゼルニジピン	214 血圧降下剤	〔副作用〕の項に、新たに「重大な副作用」の項目を設け、「肝機能障害、黄疸」を追記した。
08-028	メシル酸ジヒドロエルゴトキシン	219 その他の循環器官用薬	〔禁忌〕の項に、「心エコー検査により、心臓弁尖肥厚、心臓弁可動制限及びこれらに伴う狭窄等の心臓弁膜の病変が確認された患者及びその既往のある患者」を追記し、 〔副作用〕の項に、新たに「重大な副作用」の項目を設け、「後腹膜線維症」を追記した。
08-029	酸化マグネシウム	234 制酸剤	〔重要な基本的注意〕の項を新たに設け、高マグネシウム血症があらわれることがあるので、長期投与する場合には定期的に血清マグネシウム濃度を測定するなど特に注意する旨を追記し、 〔副作用〕の項に、新たに「重大な副作用」として「高マグネシウム血症」を追記した。
08-030	カベルゴリン	116 抗パーキンソン剤	〔重要な基本的注意〕の項に、レボドパ又はドパミン受容体作動薬を投与されたパーキンソン病患者において、病的賭博、病的性欲亢進等の衝動制御障害が報告されているので、このような症状が発現した場合には、減量又は投与を中止するなど適切な処置を行う旨を追記し、 〔副作用〕の「重大な副作用」の項の後腹膜線維症に関する記載に、背部痛、下肢浮腫、腎機能障害等があらわれた場合には投与を中止する旨の記載整備をした。
08-031	塩酸タリペキソール 塩酸プラミペキソール水和物 レボドパ レボドパ・カルビドパ レボドパ・塩酸ベンセラジド 塩酸ロピニロール	116 抗パーキンソン剤	〔重要な基本的注意〕の項に、レボドパ又はドパミン受容体作動薬を投与されたパーキンソン病患者において、病的賭博、病的性欲亢進等の衝動制御障害が報告されているので、このような症状が発現した場合には、減量又は投与を中止するなど適切な処置を行う旨を追記した。